

「今日のおかずは何にしましょう。」おいしい食事を楽しむ生活の一部です
(綾の会/上羽さん・水島さん)



出掛けることが大好き。
気軽に街を歩けたら、
もっと楽しいでしょうね。

特集

福祉のまちづくりとボランティア

だれもが 住みなれたまちで 暮らし続けたいと 願っています

障害をお持ちのかたも、高齢となり介護が必要なかたも、だれもが「住みなれたまちで暮らし続けたい」と願うのは自然なことです。

現在、日本人の平均寿命は女性83・59歳、男性77・1歳で史上最高齢となり、男女とも「長寿世界一」という大変喜ばしい現状です。しかしその反面、高齢期を迎え、自分が自分である状態を保持し続けることや、障害をお持ちのかたが自立した状態で生活し続けたいという基本的な欲求を実現することが、大変困難になっています。

このような中で、一人では難しいこれらの希望の実現のために福祉制度の充実が叫ばれ、それとともに人と人とのふれあいの中から生まれる支えあえる地域社会と、支える行為がいずれ自分にも返ってくるという仕組みを考えていくことが必要になってきています。

支える人、支えられる人 それぞれが人生の主役です

ボランティア活動をしている人、受けている人、それぞれが調和しあい、響きあって素晴らしい関係が生まれます。ここでは、狭山市で初めて介助ボランティアを始め、今年で20周年を迎える「綾の会」のボランティアさんと、綾の会発足当初から「ボランティア」とは、障害者とは」という

ことを身を持って伝え続けている岡田喜代さんをご紹介します。
このボランティア活動では、長年の信頼が素晴らしい関係を生み出しています。こういった形のボランティアも必要であり、それと平行してだれもが気軽に同じように受けられ、参加できるボランティアも、これからは求められていきます。

介助ボランティア受け手 岡田 喜代さん (入間川在住)

岡田さんは視覚障害がありますが、行動派で、お琴、詩吟、三味線などかなりの腕前です。そして今はフルートを一生懸命練習中です。また、電車を利用して定期的に他市の教会や都内へ出掛け、友だちと過ごす時間を楽しんでいます。

岡田さんが狭山市に来たのは昭和25年。入間川の町並みは今と違って車も少なく、一人でどこへでも行けたそうです。道を歩くときは、建物の

間を通り抜ける風や反響などを感じて、歩を進めます。現代の込み合った人と建物を考えると、視覚障害者のかたが一人で歩くのは、かなり難しいということが想像できます。

介助ボランティア「綾の会」の皆さんは、そんな岡田さんの目になっていて、基本的な生活は完全に自立している岡田さんですが、やはり目が見えないというのは、不自由があります。たとえば買い物、昔のように八百屋に行けば大根を、魚屋に行けばサンマを買える、というわけにいかなくなつた、昨今のスーパーでの買い物で、綾の会の皆さんは一品一品、値段とどんな種類が置いてあるのかを声にします。その中から岡田さんが欲しいものをご購入するので

す。また、岡田さんが得意な編み物は、どんな配色にすれば美しいかをお伝えします。そんな綾の会の皆さんを、岡田さんは「自分の子どものように自然だから特別な感激はないです。ただ、一人で歩けなくなった街をガイドしてくれるのは、本当に助かります。」とおっしゃいます。もちろん叱るときもあります。が、「助けてもらっているからこうしなさい。」という気持ちは全くないとのこと。

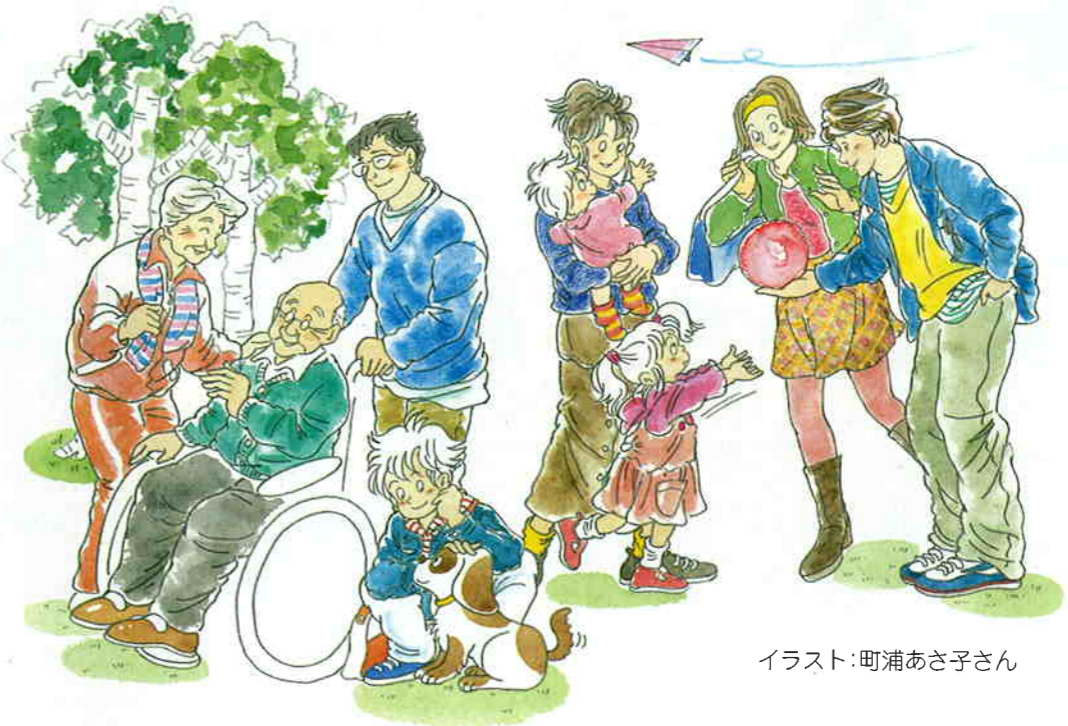
今、岡田さんは一人暮らしです。まだまだお元気ですが、万が一倒れたときのことなどを考えるとやはり心細いと、フツともらします。そんなとき、必要となるのがボランティアであり、公的サービスです。

今年82歳、いつも元気な岡田さんの健康の秘訣は、おいしいご飯を3食しっかり食べ、楽しく暮らすこと。そしてその暮らしを彩る楽しみの「縁の下の力持ち」が、岡田さんを支え、自分たちも勉強を重ねているボランティアのかたがたなのです。

綾の会

水島 まさ子さん

ボランティア活動を始める前、私は社会の価値観について疑問に思うことがありました。本当に大切なものは、お金とか名誉とか物ではなくて、もつと違うものではないかと。でもそれが何なのか分からなかったのです。そんなときボランティア講座を知り、「私に何かできることがあれば、させていただきたい。」と思いましたが、活動していきけるかどうかはとても不安でした。でも講習を受けて、「これだ！」と思つたのです。本当に価値があるのは、目に見えないもので、人の心とか、一生懸命努力することとか、思いやることだったと確信が持てたのです。そうして始めたボランティアですが、初めは本当に何も分からず、岡田さんに全て教えていただいたりやっとならぬまで続けてもらいました。ボランティアのことだけでなく人生のいろいろな大切なことも教えていただいています。岡田さんの、何にでも努力を惜しまない姿勢を身近に見ているおかげで、



イラスト：町浦あさ子さん